

本日で議論いただきたい点（案）

議題（１）事例集候補、ヒアリング候補先、事例集骨子について

1. 好事例候補一覧やヒアリング候補案について

- ・ 3つのワーキンググループ（WG）を通じて関係省庁からの意見を聴取した結果を踏まえ、資料1のとおり、分野ごとに少なくとも3つの事例を事例集に掲載するとともに、順次、ヒアリング（オンライン又は現地視察）等を実施することとしてはどうか。

2. 今後のヒアリング実施に当たっての留意点等について

- ・ 本日の検討会の開催に先立ち、資料2のとおり、2箇所（介護、製造（食品））の先行ヒアリングを実施したところ。
- ・ その結果等も踏まえつつ、今後のヒアリング実施に当たり、資料3のヒアリング質問事項（案）について、意識的に聴取すべき事項や留意すべき点はあるか。

3. 事例集骨子案について

- ・ 既存の好事例集のフォーマットを参考に、資料4のとおり、事例集骨子（たたき台案）を作成しているが、今後の事例集の作成・とりまとめ作業にあたり留意すべき点はあるか。

議題（２）多能工育成に関する取組

- 前回会議では、アドバンスト・エッセンシャルワーカー（AEW）について、「現場オペレーションワーカー」と「現場コーディネーションワーカー」の２類型（※１）を暫定的に提示した上で、経営者、管理職、現場担当者など各層を視野に入れ、具体的事例を積み上げるべき。
また、共通要素として、価値創出をリードすること、より高い処遇につながることを、外部コンサルではなく現場の当事者であるべきことをご指摘いただいた。
- 今般、事例収集等を行っていく中で、建設分野等で進められている「多能工化」の取組については、
 - ①工期の短縮、手戻りの縮小、人材の有効活用を通じたコスト縮減と生産性向上、
 - ②建設技能労働者にとっても、取得した資格等に応じた給与・地位向上に資すること（資料５参照）が分かった。
- **多能工**は、持てるスキル等を活かして生産性を向上させ、現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカーであり、デジタル技術の活用如何に関わらず（※２）、アドバンスト・エッセンシャルワーカーの概念整理の重要なヒントになるのではないか。
- また、国土交通白書によると、多能工の取組として、建設業のほかに、物流、宿泊・飲食業などが言及されており、こうした分野も含め、多能工の取組を収集していったらどうか。
一方で、医療、福祉分野では同様の事例は少ないと思われることから、多能工化以外で概念整理に加えるような事例についても、引き続き、ヒアリング等を通じて模索していくこととしてはどうか。

※１ AEWの類型化については、「令和８年４月３日第２回労働市場改革分科会・山田久委員提出資料」において、
◆自らが知識と技術を使いこなして生産性向上をリードする「現場オペレーションワーカー」と、
◆知識と技術を駆使して現場の作業プロセスを改善して組織全体の生産性向上を推進する「現場コーディネーションワーカー」
の２種類に整理する考え方が示されている。

※２ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版（令和７年６月13日）において以下のとおり記載がされている。
・ アドバンスト・エッセンシャルワーカー（デジタル技術等も活用して現在よりも高い賃金を得るエッセンシャルワーカー）

議題（３）ハローワークの求人者支援の取組

- 前回会議では、労働行政が生産性向上策を直接すべて実施するのではなく、各省庁・支援機関の役割を横断整理した上で、地域の中小企業に身近であり、かつ、全国に拠点を持つハローワークを入口としたワンストップ・リファーマ機能（適切な機関につなぐ仕組み）が重要とのご指摘をいただいた。
- これらのご指摘を踏まえつつ、人材稀少社会において、求人部門の機能強化を図っていくことが求められるハローワークは、人手不足に悩んでいる企業等が多いエッセンシャル業職種におけるマッチングの対応として、今後、どのような取組を行っていく必要があるか。
- 既に、ハローワークにおいては、医療・福祉分野に関し、「医療・福祉ささえる求人充足プロジェクト」等を通じて、積極的な事業所訪問や求人充足支援に取り組まれているところ。限られた人員制約の中で、それ以外の分野も含め、エッセンシャル業職種の求人者支援をいかに効果的・効率的に行っていくかという観点から、
 - ① 各業界や企業等の取材を行っていく過程の中で、事業者の視点からハローワークに期待される支援内容を聴取するとともに、
 - ② 平行して、ハローワークにおける求人部門の課題感についても確認し、
 - ③ その上で、両者の状況を踏まえた上で、本検討会において取りまとめられる予定の好事例集や支援ツールの効果的な活用方法や、関係機関とのリファーマを整理すること等により、現実妥当性のある、ハローワークの求人者支援機能の底上げを図っていくこととしてはどうか。